

2016 年度前期「地域学総説」授業計画

開講日時・場所：水曜日 5 限 共通教育棟 A20 講義室

【第Ⅰ部】学科を越境して自分なりの「地域学」を捉え直す—地域でともに生きる場をつくるために			
1 回	4 月 13 日	オリエンテーション 藤井 正（政策学科）	地域学とは何か
2 回	20 日	仲野 誠（政策学科）	地域のつながり再考—社会関係資本という視点
3 回	27 日	竹川俊夫（政策学科）＋藤田和子（NPO 法人 若年性認知症問題に取り組む会・クローバー・副理事長）	「認知症の当事者として地域を生きる～当事者とともに創り、ともに生きる地域を目指して～」
4 回	5 月 11 日	三木裕和（教育学科）	「障害のある人の地域生活」
5 回	18 日	岡村知子（文化学科）	「文学作品は地域をどのように描いてきたか」
6 回	25 日	菅森義晃（環境学科）	「地質学者が見る地球の姿」
7 回	5 月 30 日	筒井宏樹（芸文センター）	「地域においてアートはどのような実践を行ってきたのか。」
8 回	6 月 8 日	各学科・センター担当教員	第Ⅰ部の振り返り
9 回	15 日	地域調査実習報告（1）	地域政策 地域文化 芸文センター
10 回	22 日	地域調査実習報告（2） 第Ⅰ部のまとめ	地域教育 地域環境 ■第1回レポート課題提示
【第Ⅱ部】「専門分野の学問」と「“地域”で働く」ということのかかわり			
11 回	29 日	藤井裕也（特定非営利活動法人山村エンタープライズ）	「地域で働くを決める5つのターニングポイント 鳥取大学学生編」 ■第1回レポート課題提出
12 回	7 月 6 日	藤野興一（社会福祉法人鳥取こども学園）	「日本の養育の危機と施設や里親の現状と課題—学生諸君に知って欲しいこと」
13 回	13 日	中村 愛（県立図書館司書）	「図書館のお仕事」
14 回	20 日	前田昭博（やなせ窯 重要無形文化財保持者）	「私と白瓷」 ■第2回レポート課題提示
【第Ⅲ部】地域学部で学ぶ意義を共に問い直し、自らのこれからの学びを再構築する			
15 回	27 日	総合討論（学科・センター担当教員）	14 回の授業で出てきた論点にもとづいて ■第2回レポート課題提出

1. スタッフの構成

全体コーディネータ：仲野（政策）、サブコーディネーター：竹川（政策）・多田（政策）

学科担当教員：東根（政策）、田中（教育）、岡村（文化）、實来（環境）、筒井（芸文）

ティーチングアシスタント（TA）：董（教育）、山田（政策）

2. 授業のねらいと概要

授業全体のねらい：自分の学科で2年間学んできた「専門性」をここでいったん学びほぐし、複眼的思考で大学生活後半の専門的な学びを再開できるようになること。「階段の踊り場」としての「総説」。

方法：自分の学科での「専門的な」学びを越え、他領域の視点、発想、枠組み、問いの立て方に気づくために、自分の現場で格闘されている方々や他学科の学生・教員あるいは卒業生らと経験とそれに基づく言葉を交換する。

【第Ⅰ部 学科を越境して自分なりの「地域学」を捉え直す—地域でともに生きる場をつくるために】

- (1) 今日の地域課題を考えるために、ある特定のテーマをめぐって複数の視点が交差する場をつくる。その試みとして「地域でともに生きる場をつくる」という大きなテーマを設定したい。

- (2) 地域をみつめるさまざまな視点について学びながら、いままぜ「地域（学）」なのか、ひと・もの・自然とそれらの関係性をどのように学問に織り込んでいけるのか、地域学がめざすものとは何かについて改めて考える。
- (3) 自分のこれまでの専攻分野（学科）での学びを振り返り、①地域に対する自らの専攻分野の視点や立ち位置を再認識するとともに、②他専攻分野の視点や立ち位置との比較を通して、違いや共通点に気づく。さらに、それらのつながりや結びつけて探究すること（学際的アプローチ）の意義について改めて考える。
- (4) この時代に地域学を学ぶことが自分にとって、あるいは人類にとってどのような意味があるのか考えてみる。そしてこれからより役に立つ学問の創出につなげる。

【第Ⅱ部 「専門分野の学問」と「地域」で働く」ということのかかわり】

- (1) 自分の現在の学びと卒業後の「働く」という行為とのつながりを想像できるようなロールモデルの方々の経験に耳を傾け、大学生活後半の学びに向き合う姿勢をつくる。
- (2) 学問が、地域とどのように関わって展開されているのか、いまご自身の現場で格闘されている方々のお仕事から具体的に理解する。同時に、自らの専攻分野とのつながりについて考える。
- (3) これまでの自分の学びを振り返り、「自分のとっての地域学」を（再）構築してみる。そして地域学を土台として専門性を深めていくことや、自分が今後地域でどのように生かされるのか（キャリア形成も含んで）ということ、立ち止まってしっかりと考えてみる。

【第Ⅲ部 地域学部で学ぶ意義を共に問い直し、自らのこれからの学びを再構築する】

- (1) 4年間の大学生活の折り返し地点に立ち、地域と出会う／出会いなおす、あるいは自分と出会う／出会いなおすという作業を試みる。多様な関心をもつ仲間たちと共に賢くなる。

3. 授業のテキスト

柳原邦光，光多長温，家中茂，仲野誠編著『地域学入門－〈つながり〉をとりもどす』ミネルヴァ書房（2011）

4. 成績評価について

- ・出席状況（原則として、欠席が3回をこえると単位の認定はできない）
- ・討議等への参加状況，授業後の感想（15回），課題レポート（2回）を総合的に評価する。

5. 課題レポートについて

第1回	課題提示日 6月22日	レポート提出日 6月29日
第2回	課題提示日 7月20日	レポート提出日 7月27日

レポート課題は改めて提示する。

【提出要領】

- (1) 表紙は不要
- (2) 1行目：学科，学籍番号，氏名
- (3) 2行目：レポートタイトル（レポートの内容を適切かつ簡潔に表現するものをつける）
- (4) 字数：1000字以上（2頁にわたる場合は両面印刷とする。3頁以上になる場合はホッチキス留め）
- (5) 字体等：横書き，明朝体（10.5ポイント）

以上。